800 letters

mariko

バレンタインデー

小さな箱の山に人が群がっているのを見ると「ああ、今年もこの時期がきたな」と思う。バレンタインデーは少し苦手だ。というよりは、モノが山積みになって 売られているのを見るのが、あまり好きではない。大切にされていないような感じがするのだ。もちろんチョコレートはひとつひとつ美味しいに違いないのだけ れど、やはりチョコレートとしての慎み深さは失ってほしくない。チョコレートには、何か特別なプライドのようなものがあると思う。チョコレートとしての格 のようなもの。だからバレンタインが過ぎた途端、叩き売りされるかのような扱いを受けるのも、どことなく物悲しい。

昨年は職場の男性陣のために、後輩の女の子とチョコレートを買いにスーパーへ出掛けた。それはそれで楽しかったけれど、チョコレートに群がる人達（もちろん自分を含む）を見て、「やれやれ」とも思った。もう少し密やかにチョコレートを買えたら良いのだけれど。

大 切な人に渡すチョコレートは、人の群れをかきわけて買ったものではなく、自分で作ったものが良い。そしてあわよくば一緒に食べたい。なのでここ数年、お菓 子を作っては「バレンタインだから」と言って渡し、仲良く一緒に食べている。大抵それはチョコレートに限らず、クッキーだったりケーキだったりするし、一 緒に食べる相手は彼氏と呼べる人でないことも多いのだけど。

つまり私にとってバレンタインデーというものは、この日を口実に「あなたが好きよ」という想いを伝えながら美味しいお菓子を食べる日なのだ。振り返ってみても素敵な思い出ばかりなので、これは年に2回くらいあってもいいんじゃないかなぁ、と思っている。

ようやく気づいた。バレンタインデーが好きなのだ、私は。今年も何を作ろうか、そろそろ考えておくべきかもしれない。これを読んで何かリクエストしたくなったあなたは、私にこっそり、教えてください。